

平成元年度 経営改善計画ヒアリング 計画・取組状況とヒアリング時の特記事項 <就職活動の支援>

今後の計画（3年間）	令和元年度の具体的取り組み・タイムスケジュール	ヒアリング時の特記
<p><学生課キャリアセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆就職率の向上（～32年度） インターンシップの紹介勧め ◆1、2年生（低学年時）からのキャリアガイダンスの導入（～32年度） ◆3年生（低学年時）からのキャリアガイダンスの導入（～32年度） ◆低学年次より取り組んでいる「キャリアガイダンス」の効果が、散見される。 企業説明会等への参加が顕著にみられる。 このことは、就職判断の大きく寄与するものと思われる。 ◆多様なインターンシップの受け入れ先の開拓（～32年度） 	<p><学生課キャリアセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆インターンシップでは、履修登録者への参加を促進するため、今年度も大学独自に受入先候補を選定し学生の希望に対応した。 *現在インターンシップ参加予定学生数：41名 ◆工学部医療工学コース：工学フォーラムにて 6/3「キャリアガイダンス講座」～仕事への取組み～を実施 ◆船舶工学コース：現代技術論にて 4/8「企業人メッセージ」実施 ◆総合情報学部（3コース）：総合情報学フォーラムにて下記を実施 5/30「新聞を読む」*1 7/4「キャリアデザイン講座」～自己PRを考える～ 7/11「キャリアデザイン講座」～これからするべきこと ◆総合情報学部知能情報学コース：総合情報学キャリアⅡにて下記を実施 6/10 キャリアデザイン①講座「サイバー犯罪の被害に遭わないために」 7/22 キャリアデザイン②講座「管理職になろう」 *令和元年度後期についても各学部と実施調整の予定 ◆総合情報学部知能情報学コース：総合情報学ゼミにて 5/14 キャリアガイダンス ～自己PRを考える～ 5/21 企業研究のワークショップ（Gr分け・説明） 5/28 新聞で探す キャリアデザイン 6/4 履歴書/エントリーシート作成方法 6/11 SPI3 理解講座 6/18 SPI 模擬試験 6/25 企業研究のワークショップ（発表会） *令和元年度後期についても各学部と実施調整の予定 ◆低学年次より取り組んでいる「キャリアガイダンス」の効果が、散見される。 企業説明会等への参加が顕著にみられる。 このことは、就職判断の大きく寄与するものと思われる。 ◆「企業訪問」を通して業界・業種の理解を深め、仕事への取り組む姿勢を探る。 （長崎県若者定着課及び長崎市雇用政策課と連携協議） ◆インターンシップでは、履修登録者への参加を促進するため、今年度も大学独自に受入先候補企業を選定し学生の希望に対応した。 ◆長崎県産業振興財団とのコラボレーションによる県内誘致新規企業の発掘。 	<p><学生課キャリアセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> •採用方法・時期の変化(多様化)への対応策→大きな波に対しては歯止めがきかない。各社バラバラ。時期を見て一巡したところでの公募を依頼。学生の内定保留可(複数社受験)と報告・連絡・相談の徹底の指導。

◆キャリア教育、多様なインターンシップ導入の効果検証と改善（～32年度）

◆県内企業を積極的に訪問による、インターンシップの受け入れや求人募集の情報収集（～32年度）

◆キャリア教育の必須科目への組み込み（～32年度）

◆「企業訪問」を通して業界・業種の理解を深め、仕事への取り組む姿勢を探る。

◆H30年度から県内企業探索として「企業見学バスツアー」を催し、

県内3社の企業及び事業所を見学した。(2/13)

参加学生は、工学部中心で19名の参加であった。

訪問企業：・(株)ウラノ ・日特エンジニアリング・伸和コントロールズ(株)

令和元年度も継続的に開催していく

・2月度で実施予定

◆県内にも優良な企業が存在を周知し県内就職を促進するとともに、学生にマッチングした進路指導の推進につなげる。

・長崎労働局

◆社会人基礎力（3つの能力/12の要素）の強化・実践

下記を重点的にキャリアガイダンスにて講話・講義していく

1. 前に踏み出す力（アクション）
2. 考え抜く力（シンキング）
3. チームで働く力（チームワーク）

・県内企業への就職促進の具体策は？→県の若者定着課が昨年から発足し、大学と連携。合同企業面談会、企業HP改廃、インターンシップ対応、キャリアアドバイザーの配置など。工業会との連携は個別に対応。

・キャリア科目の必須化については、教務委員会だけでなく、就職対策委員会でも引き続き、検討していく。

<教務専門委員会・教務課>

<教務専門委員会・教務課>

<教務専門委員会・教務課>

- 必修科目の変更の予定は？特に、人材育成の観点から、キャリア教育関連の必修化や科目の検討は？→キャリア関連の科目は、何科目かは、必修にすべき。ただし、「将来計画フォーラム」のようにオムニバス形式で受動的な内容の講義をそのまま必修化するより、能動的でスパンの長いものを必修化すべき。例えば、総合情報学部のキャリア 1、キャリア 2、キャリア 3(1年から3年)は全て必修化。専門家に講義の内容の設計を依頼。ブレーンストーミングやKJ法等の頭の整理の仕方なども、組み込む必要。来年度から、または、科目そのものを必修化は難しい。今後、工学部では、科目の効果的な運用検討後に、キャリア科目の必修化。
- 福岡工業大学は、キャリア教育の充実と就職が売りで、入学募集でも効果大。キャリア科目の必修化は、その柱(根幹)。学生一人ひとりが早い段階で、人生の選択肢を知り、道に乗せてあげられるように、4年間で体系的なキャリア教育を必修化できるシステムの構築をぜひ、検討してほしい。→総合情報学部で実施した中で、良いものを工学部にも取り込んでいきたい。

コース等の取組		
<p><船舶></p> <p>【内定率100%の維持】</p> <p>◆船舶では学年担当制を採用して木目細かい指導を行っており、4年では学年担当が卒業担当教員と協力して、内定率100%を達成しているが、今後も維持する。</p>	<p><船舶></p> <p>◆工場実習 企業の理解を深めるために、インターンシップや工場実習に行くことを強く勧める。本年の3年生は、18人中16名が工場実習に参加予定。</p> <p>◆推薦書 教員が、個々の学生それぞれの特性等をA4:1枚の推薦書、または、調査書としてまとめ、各学生の就職希望先の企業へ提出する。</p> <p>◆企業説明会 日本船用工業会の「船用工業説明会」を12月に学内にて開催予定。</p>	<p><船舶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国近隣→造船需要あり、造船でもっている。景気が悪いのは大手重工系列のみ。求人は1人あたり3社ぐらいある。 ・造船所も人手不足。女性の活躍も視野。 ・ほとんどの造船所は、本学の卒業生でもっている。
<p><機械></p> <p>◆JABEE継続をしない場合、そのデザイン・システムの両プログラムの利点を活かした、「機械の設計分野に限らず、電気、電子、情報を含めた幅広い学際的知識をもち、また企業で即戦力で活躍できる技術者を育成する」ことを教育目標に挙げ、国際基準を満たした人材を輩出できるようにする。</p>	<p><機械></p> <p>◆入学者増と出口確保のためには、高校訪問や各種イベント等へ参加し、上場している大手企業もしくは地元の優良企業へ在学生を就職させるようにしている。</p>	<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職も内定が出ない→学生は出遅れ、認識不足、勉強不足で対応する弁も立たない(本学学生の特徴)。
<p><建築></p>	<p><建築></p>	<p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属高校で運動系の生徒はいかに飽きることなく、授業に取り組んでもらうかが課題。体育会系は、就職は重宝される。単位を取る過程が課題。 ・一級建築士を目指すため、卒業後に科目等履修制度で取りこぼした単位を取得することも可能。
<p><電気></p>	<p><電気></p>	<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職(卒業生)の窓口は電気電子部門として、新しいコース(プログラム)を開設する方法あり。就職口も上手く機能させることも可能。 ・強電は、ニーズはあるが、全国的に減少し設備費用がかかる、いつまでやるか?→電気電子部門として形だけ残す方法あり。電気主任技術者(設備とリンク)の免許をどうするかが、キー?コスト面優先に考えると「電気主任技術者」をどうするか?無くすと、強電はなくなる、設備負担はなくなる。強電系の就職実績は大手中心。
<p><医療></p> <p>【国家試験の現状と今後の対応】</p> <p>◆当コースの国家試験の結果は、資料3の通りである。合格者を全国平均より高くすることは、入学者数を確保することにも繋がる。これまでに、国家試験の合格者を全国平均以上として、一人でも多くの学生が合格できるシステム運用を構築することを目標としてきた。しかしながら、学習能力の不足で国家試験に合格出来ない学生がいることも事実である。当コースでは、3年生から4年生に上がる際に、病院実習履修資格試験を行なっている(資料4)。</p>	<p><医療></p> <p>◆今年度も、国家試験受験までのロードマップ(資料4)に準じて、国家試験対策を行う。3年生に対して、12月から合計3回の模擬試験を行なって、ある一定以上の点数を取った学生を合格とし、4年生で病院実習に行かせる。令和元年も、この試験に加えて、3年間の各学生の成績評価係数のμ値も参考に、最終的には、学生、及び、保護者と面接して、合否判定を行う。4年生に対しては、4月から毎月1回の模擬試験、8-10月の病院実習、及び、11月からは月2回の模擬試験を予定している(資料4)。</p>	<p><医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験不合格者→研究生として、フォロー。一級建築士、臨床工学技士など、国家資格(高い目標がある)があることは大事。 ・ME2種→学会認定試験。就職に役立つ。 ・国家試験受験学生と民間企業受験の割合は、民間企業受験の割合が増えつつあり、4:6ぐらい。理想は、企業受験でも国家試験を合格して受験。

<p><知能></p>	<p><知能></p>	<p><知能></p> <ul style="list-style-type: none"> • 学力が高い生徒が興味を持って来て欲しいが、現実には厳しい。学力の低い学生を引き上げるのは、現在も手一杯の状況。
<p><マネジメント></p>	<p><マネジメント></p>	<p><マネジメント></p> <ul style="list-style-type: none"> • 留学生→日本人学生との交流活性化。来年度10名の中国からの編入学予定者には、対策必要。留学生の就職先も。
<p><生命></p>	<p><生命></p>	<p><生命></p> <ul style="list-style-type: none"> • 高校時代に生物や化学専攻が多く、入学した学生は環境分析、生物科学に興味が高い。物理専攻が少ないので、エネルギー関連などへの幅が広がらない。 • 受験者数を増やすか、育成して卒業後遜色なくできるように付加価値をつけてやるかのどちらか。就職モデルと資格との関連性(食品、エネルギー)。 • 就職先→工場系、農協、エネルギー設備・管理・メンテ企業など。